会　議　録

1　会議名
　令和４年度　上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会
2　議題（全て公開）
　(1)　上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会について
　(2)　専門部会における令和３年度の取組内容と令和４年度の取組方針案について
　　①入退院時連携推進部会
　　②対人援助スキルアップ部会
　　③急変時対応部会
　　④市民啓発部会
　(3)　医療・介護連携の推進に向けた今後の取組について
3　開催日時
　令和４年７月２１日（木）午後７時から午後８時３０分まで
4　開催場所
　上越市教育プラザ　大会議室
5　傍聴人の数
　０人
6　非公開の理由
　なし
7　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）
　委　員　：高橋慶一、長谷川正樹、渡辺正、押山貴光、揚石義夫、
　　小宮山陽子、藤本智恵、森橋恵子、早津敏彦、坪井円香、
　　丸山許江、関原礼敏、石田さとみ　（出席１３人　欠席１人）
　事 務 局 ：上越市
　　小林福祉部長
　　すこやかなくらし包括支援センター　渡辺所長、岩﨑次長
　　高宮上席社会福祉士長、佐藤保健師長、吉村主任
　　高齢者支援課　星野課長、伊藤副課長、高橋作業療法士長
　　妙高市
　　福祉介護課　岡田課長、保坂課長補佐、小林係長、原田主査
8　発言の内容（要旨）
○　開会
○　挨拶　　小林福祉部長

○　委員紹介　委員、事務局の紹介

○　議事

(1)　上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会について
　　　　＜資料１に基づいて説明＞

(2)　専門部会における令和３年度の取組内容と令和４年度の取組方針案について
　　　　＜資料１及び資料２に基づいて説明＞

(意見交換)

坪井委員：　私たちが栄養指導をする際、患者のこれまでの人生や、家庭での具体的な生活を理解し接しているかというと、正直できていないことが多いと感じる。入退院時連携推進部会の報告を受け、病院で働くスタッフも、患者を点で捉えず、退院後の地域での生活にまで思いをはせて接することが大切だと再認識した。そのような中、対人援助スキルアップ部会の研修は､栄養士の意識付けのきっかけにできると思ったが、ケアマネジャー以外の職種でも聴講は可能か。

保坂課長補佐：　研修動画については、どの職能団体でも活用いただける。そこでの気付きから議論し、それをまた他職種と話し合うなど、病院で活用していただくこともできる。研修パッケージの渡し方は事務局で検討中だが、今年度の栄養士会の研修日程など決まっていれば、今後連絡を取らせていただきたい。

揚石委員：　対人援助スキルアップ部会の取組には、その背景に、同じ職種であっても医療側と在宅側で認識が異なることや、同じ職場であっても職種によって捉え方が異なることがある。しかし、在宅医療と介護に関わるどの職種においても対人援助は必要であり、病院・在宅にかかわらず共通の基盤があることから、研修を企画してきた。この共通の基盤を誰もが認識することで、同じ目線で同じ方向を向いた援助が可能になると思う。ぜひ色々な職能団体にこの研修パッケージを利用してほしい。

小宮山委員：　入退院時連携推進部会の一員として、昨年度の高田地区ケアマネジャー研修会に参加した。在宅側の声を直接色々と聞けて、とても有意義だったので、ぜひ多くの看護師に参加してほしいと思う。病棟看護師が、退院後の地域における患者の状況を知るという機会を今後も作ってもらえるとありがたい。

また、ケアマネジャーの意見を基に、医療機関の連携窓口一覧が更新されたが、成果として非常に良いものだと思う。

押山委員：　入退院時連携推進部会の連携窓口一覧だが、これはケアマネジャー以外でも、薬剤師会でも活用してよいか。

佐藤保健師長：　確かに病院と連携するのはケアマネジャーだけではない。多職種が連携する際に窓口が明確になっているとスムーズな情報共有ができるので、次の部会で活用について検討いただく。

石田委員：　地域連携連絡票について活用を広めたことで、ケアマネジャーが担当した時に、当たり前に作成するようになった。そのため、サービス利用時や入院時の連携が取りやすくなった。しかし、各地域包括支援センターでの活用がまだ不十分に感じるので、行政から周知してほしい。

佐藤保健師長：　地域包括支援センターへ、地域連携連絡票を活用するよう研修会等で周知していく。

(3)　医療・介護連携の推進に向けた今後の取組について

(意見交換)

押山委員：　研修会は講演だけではなく、フリートークができる時間があるとよい。昨年、しおさいの里地域包括支援センターが開催したケアマネジャー研修会後に、グループワークを行い、薬剤師とケアマネジャーで自由に話をしたところ、薬剤師のことを分かってもらえたように感じた。また、歯科医師会と一緒に講演する機会があり、オーラルフレイルについて、自分が訪問している患者へアンケート調査をしたところ、口腔のことに無頓着な高齢者が多いように感じた。薬により、口渇が生じたり嚥下が悪くなったりする場合もあるので、今後も歯科医師会と一緒に研修会を行っていきたい。

渡辺委員：　歯科医師会としても薬剤師会と一緒に、高齢者の口腔に関する意識を上げていきたいと考えている。そして、ケアマネジャーも、口腔に関しては生命と直結しないため意識が低いと感じる。在宅歯科医療連携室に依頼が来る事案は、既に噛めない程度にまで進行した状態であることが多い。もう少し前の段階で連絡をもらえれば、早く対応できる。オーラルフレイルに関しては歯科医師会では研修が進んでおり、助言などが可能なため、連携できればと考えている。

関原委員：　施設における医療について提言したい。現在、施設で亡くなられる方も多く、そのような中で嘱託医に駆けつけてもらうというのは大変で限界がある。病院・医師会からの協力など、へき地医療と同じように施設の医療についても、何かしらの工夫を考える時期にきていると思う。

長谷川委員：　本協議会に参加し随分経つが、大分骨格・肉付けができてきたと感じる。病院は地域と連携していかないと、もう一つ一つでは成り立たないと思う。現在、中央病院では急性期を担い、回復期は別病院が担っている。また在宅・施設などと役割分担ができているので、コロナ禍で病棟が減っても回っているのだと思う。また、施設の方から話のあった最後の看取りは、高齢化や家族形態の変化等で、施設やケアマネジャーの判断は大変になっている。看取りについて、嘱託医は法律上24時間以内に診ればよいのだが、市民で知っている人は少ない。そのため、ACP（アドバンスケアプランニング：人生会議）と同時に、こういった看取りについての周知・啓発も必要だと感じる。

小宮山委員：　介護と医療の連携をさらに進めていく上で、急性期病院の看護師が地域を肌で感じることが大事だと思う。急性期は患者の平均在院日数が短い。そのような中で、患者が退院後にどのような生活をしているのか、地域の医療・介護がどう支えているのか等は、知識でわかっていても実態は見えにくい。実態が分かることで、日々の看護に活かされたり、ケアマネジャーとの連携に役立つと思う。病棟の看護師が地域の研修会へ参加する機会は少ないが、この協議会や部会とはまた別に、そのような場を企画していただくとありがたい。

揚 石 委 員：　今期の令和2～4年度の部会はコロナ禍の中で集まることが難しく、苦労したと思う。しかし、それぞれある程度の成果を出してここまできており、頑張りが伺えた。ただ、これだけ頑張った内容の裾野が広がっていない。小宮山委員からも、病棟看護師がこういうことを知る機会がないとの話があった。私から一つ提案したい。委員任期の3年に1回、総仕上げという事で発表会を開いてはどうか。そして、各職能でこんな連携をしたら上手くいったという、具体的な成功事例等の発表があるとよいと思う。来年、もう1回この協議会が開かれるので、例えば土曜日に本協議会を行い、その後、発表会を行うなど、医療・介護の連携についてこれまでやってきたことをアピールする場を企画してもいいのではないか。

小 林 部 長：　私の一存では決められず、妙高市とも相談する。今年度は3年間の活動を評価する年である。今いただいた意見を前向きに検討する。

押 山 委 員：　先ほど関原委員から看取りの話があり、私個人の考えだが、看取りの時点で必要ではない薬を飲ませていないか心配な時もある。覚醒していない人へ無理に飲ませ、誤嚥性肺炎になることもあり、検討ができ

ればと思う。

関原委員：　施設では、看取り期に入ると薬を飲めない人が多く、止めてよいか指示がもらえると助かる。先ほど、薬剤師会と歯科医師会でタイアップしているとの話があったが、同じように職能ごとでタイアップするような研修会等があると、情報だけでなくつながりも広がると思う。

丸山委員：　訪問看護では、在宅での看取りや病院退院直後の医療ニーズが高い人への支援が多い。高齢化の中、今後訪問診療や訪問看護の必要性が高まると言われており、訪問看護は在宅と医療をつなぐ架け橋だと考えている。小宮山委員からは、患者はいずれ在宅に戻るため病棟看護師も地域の視点を持つことが大切との話があった。より連携を深められたらと思っている。

先日、歯科医師との訪問で嚥下や栄養状態をみることがあったが、本当に色々な職種の連携が必要と感じた。主治医はもちろん歯科医師、栄養士、訪問看護、訪問介護、ケアマネジャーなど全体で見ていくべきだと思う。ぜひオーラルフレイルについて啓発を進めてほしい。

早津委員：　理学療法士会は、この在宅医療・介護連携になじまないかもしれないが、活動紹介をさせてほしい。リハビリテーションを担当する団体で、介護予防および自立支援を目的とした地域ケア個別会議に参加している。歯科衛生士・栄養士・薬剤師等も参加しており、個の事例を通して他団体との連携推進になっていると思っている。そういうことも加味しながら、この協議会を進めていくことが必要だと感じた。

○　その他

本協議会の第２回目を、令和５年２月に開催予定。

○　閉会

９　問い合わせ先

福祉部　すこやかなくらし包括支援センター（福祉交流プラザ　２階）

TEL：　025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.lg.jp

10　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。